# 体験通し自身を育てる

観光型から体験型へと移行した感のある中学校の修学旅行。学校を離れた生徒たちに体験先で待っている出会いは、日常と異なる社会の一面を垣間見せる。それは、多感な時期に新鮮な驚きを与えるとともに、時にはエポックを画す自己発見にもつながる。印象が鮮烈であればあるほど、体験をさせる意味や目的が重要なカギとなる。体験型修学旅行は、生徒、学校、受け入れ地が三位一体となってつくり上げるもの。そこで、学校が求め、実施している体験型旅行の実態をリポートする。

## 山形大学附属中学校

京都　3泊4日
11年8月　実施

## 協力して考え、動く研修で集団の質高め、個の成長を

あこがれの舞妓姿に変身した生徒たち

山形県庁に隣接する閑静な地域に校舎を構える山形大学附属中学校（鹿野智学校長）は、教員養成文化学部や附属幼稚園、小学校などと連携し、教育、研究の役割を担っている中学校だ。先進的な教育研究に取り組むと同時に、知性や社会性、そして自主的な実践力を持つ生徒を育成している。

同校では修学旅行に当たる「研修旅行」を、近年、京都、大阪を中心とした関西方面で実施している。これは、日本の歴史、伝統、文化にかかわる見識や考えを深め、日本の良さや日本の進むべき方向について意見を述べられるような生徒の育成を図るためだ。

さらに昨年の研修旅行では、①学級、学年、学校のリーダーとしての資質の伸長と、リーダーを支えるフォロアーシップの態度の育成②仲間同士の協調性や団結を高めることでの質の高い集団づくり――も目的に掲げた。「本校では『生徒同士のつながりの質を高めることが、個の成長につながる』と考えている。2年生のうちに研修旅行を行い、仲間との充実した活動時間を共有させることで、3年生を前に『心を開いてかかわり合える、質の高い集団』作りを目指した」と昨年の研修旅行を引率した須賀学教諭は語る。

須賀学教諭

伊藤洋子教諭

研修旅行では、1日目に神戸で海洋博物館などを学年で見学。2日目は京都、大阪エリアでの班別研修、3日目は同エリアでのテーマ別研修、4日目はクラスに大阪や奈良で見学研修を行った。

このうち3日目のテーマ別研修は、2～8人に分かれて、自分で選択した京菓子作りや漆塗り体験などを行うもの。テーマ別研修の後には、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）での自由行動も組み込み、前日と合わせ丸2日間を生徒の自主研修とする自由度の高い旅行内容とした。

これについて須賀教諭は、「知らない土地において仲間同士で試行錯誤し、協力して困難を乗り越えることで、充実感や達成感を味わってほしいと考えた」と話す。

実行委員が全体を牽引

クラス別に寺社などを見学研修

自主研修で、関西の雰囲気を満喫

USJでの自由行動を盛り込んだ分、生徒がトラブルに遭う可能性は高くなる。だが、引率した伊藤洋子教諭は「この学年は日ごろから結び付きが強く、またルールとして守らなければならないところはしっかりと守ろうとする意識が強い。生徒を教師側も信頼したからこそ、自由度が高く、USJで思い切り楽しむ場面を入れても大丈夫だという判断に至った」と話す。

研修の自由度を高めたことにより事前準備の綿密さがより一層求められるため、事前学習では、班別、テーマ別学習の情報収集とコース設定に大きく時間を割いた。

生徒たちは旅行会社や教師が提供した資料、インターネットによる情報などを元に、出発時間と帰着時間の設定、分刻みの研修計画、費用の算出を行った。事前準備の際には、旅行会社に校内出張カウンターを開設してもらい、必要に応じて生徒が相談できるようにした。「生徒の主体的な動きを促したいという学校の方針を理解し、協力してくれた旅行会社にはとても感謝している」と須賀教諭は語る。

生徒たちの立案により研修旅行実行委員会が組織され、委員を中心にルー作りなども行われた。

研修費用の他に持っていく予備費の額などについても委員を中心にして学年で議論し、生徒の責任の下で金額などを決めた。須賀教諭は「中学生がお金について簡単に語れるものではないが、時間をかけて学年討議を重ねることで、お金を大事に使うことの意味を考えさせた」と話す。

研修旅行で生徒たちは、大きなトラブルもなく、伸び伸びと学んだ。自主研修の時間を多く確保したことで、普段の生活では利用する機会の少ない電車などの交通機関を各自の判断で利用したり、校外で仲間や初めて会う人とコミュニケーションしたりする場面も多く、「『生きる力』の醸成にもつながった」と伊藤教諭。

集合時間に遅れてくるなどルールが守れない生徒もいたが、その失敗を通して次につながるよう指導した。「ルールによって行動を制約して生徒の失敗を防ぐのではなく、失敗してもそれを機会に学ばせることができた」と須賀教諭。

研修後、研修旅行中の活動状況について調べたアンケートの結果を、学年での研修旅行のまとめの会で発表し共有。さらに旅行の思い出を一人ひとり新聞形式でまとめた。イラストや目をひく見出しなど、工夫を凝らした紙面は、どれも京都、大阪で触れた日本の伝統美や技術への感動や仲間との楽しく充実した思い出があふれ、「また研修旅行に行きたい」との言葉がおどる。

研修に行った生徒たちは現在3年生となっているが、今でも研修旅行がとても楽しかったと感じている生徒の割合は非常に高いという。「思う存分楽しい時間を仲間と過ごせたことで、保護者をはじめ、旅行を支えてくれたさまざまな人の存在があって忘れがたい経験ができたとの『感謝』の思いも生まれているようだ」と須賀教諭。生徒たちは研修で深めた仲間との絆、一体感により、最高学年として学校全体を引っ張っている。

## 開智未来中学校

長野県飯山　3泊4日
12年7月　実施

## 里山での活動を通して自律した人間づくりへ

ブナ林の中での観察

関根均校長

埼玉県加須市の「開智未来中学・高等学校」（関根均校長）は11年4月に開校して2年目。1年生は129人、2年生は113人が在席する。学校のモットーを「人間を育てたい、知性を育てたい」として、進学のために勉強のレベルを高めるのと併せて、人間教育にも力を入れる。

中学の1年次には毎年夏休みの時期、長野県飯山市の戸狩野沢温泉北条地区で「里山フィールドワーク」を実施している。これは「人間が育つから学力が伸びる。学力が伸びるから人間が育つ」という開智未来の考え方を凝縮させた学習行事」（関根校長）だ。今年は7月16～19日の3泊4日。1年生全員が参加したほか、同校において重要な行事であることから、1年生を担当する教諭だけでなく、校長や教頭、中高主任ら数多くが同行した。

里山フィールドワークのコンセプトは「人と自然をリアルに学ぶ」で、大きく「自然体験」「自然探究」「人間体験」「人間探究」「共育」の5つの要素に分けられる。

しおりは各教科の教員が独自に作る（写真は理科）

この5つのコンセプトを満たすことができる地域が飯山だった。中高部主任の堀口賢司教諭は「里山を探していた。人類の始まりのような環境が里山にはある。里山でほかのところも見に行ったが、人と自然が共存している場所は飯山しかなかった」と語る。

自然体験のキーワードは「もぎとり」と「感動」。もぎとりとは、同校独自の言葉で、視覚、聴覚、嗅覚など五感を研ぎ澄まして自然を感じること。

飯山では、朝5時から2時間ほど宿の近くを散策し、夜はホタルや星空の観察に出かける。

自然探究のキーワードは「観察」「発見」「疑問」で、ブナの原生林をトレッキングし、森林の役割を考えたり、ブナの保水力を目にしたりする。川に入って水生生物も観察。里山でのすべての活動を通じ、自然と人間の共存についても考える。

こうした里山での活動で生徒たちが常に持ち歩くのが、B5サイズの「里山スケッチノート」だ。見聞きしたことや発見、疑問などを文字や絵で書き込む。

里山スケッチノートを欠かさず携行

川の中に入って水生生物を獲る

里山フィールドワークは、誰かに用意された体験プログラムをこなすのではなく、行って自分で何かを発見してくる体験だ。例えば、朝早く葉にいっぱい露が降りていたとか、鳥が目覚めたとか、いろいろと発見したことや疑問に思ったことを次々にスケッチノートにメモして、宿に戻ってきたらまとめる。

里山スケッチノートは40ページあり、飯山での4日間で全部埋めなければならない。「周りからは絵を描くスケッチと見られるが、それとはまったく違う。すべてのページに書くのはたいへんだが、子どもたちは発見したりすることがすごく楽しい。充実感があって、みんな帰りたくないと言う」と堀口教諭。

飯山の里山の風景

人間体験のキーワードは「人」「生活」。具体的には、友達を理解すること。宿泊する民宿の人に感謝の気持ちを持ち、食事や掃除などの手伝いをすることだ。

人間探究は「自立」「自律」「集団」をキーワードにしている。集団で行動するときに必要なことを自立して何でもやること、心を律して正しい行いをすることを目指す。

コンセプトの5つめの共育とは、同校の大きな特徴の1つで、保護者と一緒に子どもを育てることを意味する。里山フィールドワークで起きている出来事の動画や写真は、すぐに学校のホームページの保護者ページにアップする。子どもたちが今何をやっているのかを保護者が見られるようにしている。

堀口教諭は「見たことのないホタルを実際に見て感動すると、ではなぜ、開智未来中学校のある埼玉ではホタルが飛ばなくなってしまったのかと疑問がわく。その疑問から自分たちの勉強が始まる。ホタルが飛ぶ環境を取り戻さなければならないと思う生徒が出てくるかもしれない。里山での学びによって、日本や世界の将来に貢献する人間を育てたい」と考える。

9月8日に同校の文化祭が催される。事後学習としてこの場で、里山フィールドワークで学んだことを保護者や入学希望者に向け発表する予定だ。

飯山での里山フィールドワークの総体的な評価はどうか。堀口教諭は、「子どもたちは、いろいろな活動や発言で自信を持つなど、たった3泊4日で自律した人間になって帰ってくる。保護者からも生徒が変わったという声を聞く」と手ごたえを感じている。行動内容については、微修正はする考えだが、今後も現状路線を継続する。行き先も「自然と人とが共存するところ、ホタルが飛んでいること、夜に星が見えることが絶対条件だ」として、飯山から変える つもりはない。


今だからこそ、福島県南会津へ～

東日本大震災・福島原発事故の事柄を考え、学んでほしい！今後のエネルギーはどのようにしていくべきか・・・・学んだ事を実際に現地に行って、見て・聞いて・心にとどめ。将来に語り継ぐ・・・
この学習の場が南会津です！

南会津町の農村生活体験に登録している受け入れ農家・約１５０軒はすべて、農家民宿・簡易宿所の認可を取得しています。
安心・安全がモットーの南会津町が推奨する自慢の民泊体験です。

福島県南会津農村生活体験推進協議会
事務局　みなみやま観光株式会社
〒967-0004 福島県南会津郡南会津町田島字後町甲3973-1 FAX 0241-62-7788　E-mail info@minamiaizu.co.jp
TEL 0241-62-2250 http://www.minamiaizu.co.jp/
南会津の放射線量は0.06～0.09マイクロシーベルトです。農林水産物、放射線量のモニタリング結果は、南会津町ＨＰにて公表しています。



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
DRI
The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institution

We don t'forget
1995.1.17

未来に語り継ぐ「震災の記憶と命の尊さ」
人と防災未来センター開館１０周年

西館

1.17シアター
地震破壊のすさまじさを迫力ある大型映像と音響で体感します。

震災からの復興をたどるコーナー
地震直後や復興過程の生活・まちの姿をグラフィックで解説します。

東館

水の星の賛歌
豊かな水と自然の恵み。しかし、恵みと災いはとなり合わせであることを映像で伝えます。

こころのシアター
東日本大震災被災地の１ヶ月後、半年後、１年後を撮影したドキュメンタリー３Ｄ作品「津波の傷跡」を上映しています。

●開館時間
9:30～17:30（入館は16:30まで）
ただし、7～9月は9:30～18:00（入館は17:00まで）
金・土曜日は9:30～19:00（入館は18:00まで）

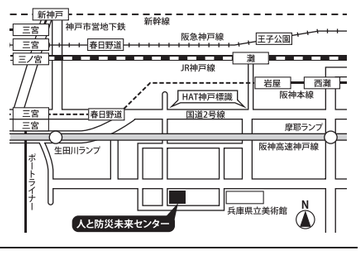
●アクセス
【電車】
●阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩10分
●JR「灘」駅から徒歩12分
【自動車】
●阪神高速神戸線「生田川」ランプから約8分、「摩耶」ランプから約4分
※駐車場有（観覧割引あり）

●休 館 日
月曜（祝日の場合は翌平日）
12/31 1/1
※ゴールデンウィーク期間中（4月28日から5月5日まで）は無休

●入館料金

| 大人 | 大学生 | 高校生 | 小・中学生 |
|---|---|---|---|
| 600円 | 450円 | 300円 | 無料 |

※20名様以上団体割引あり
※障がい者、高齢者は証明証の提示で半額




阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2（HAT神戸内）
TEL.078-262-5050（観覧案内）ホームページアドレス http://www.dri.ne.jp/